平成17年
1月15日号
No.1189
● 毎月5・15・25日発行

広報かもがわ

● 編集発行・鴨川市役所秘書課
広報広聴係
● 電話・0470(93)7827
● FAX・0470(93)7850
● 鴨川市横渚1450
● 郵便番号・296-8601

よみがえれ！ ふるさとの森

森林ボランティア団体
『鴨川里山を守る会』が発足

市内外から30人が参加

十月に発足した「鴨川里山を守る会」は、ふるさとの森を荒廃から守り、豊かな自然を次代に残していこうという人たちによる森林ボランティア団体です。

この会は、広報紙などを通じて募集した市民や市外からの参加者約三十人で構成。会員の年齢は五十代から六十代までが中心ですが、二十代、七十代の方も含まれるなど、幅広い世代で組織されています。

活動は年間十回程度、公共性の高い森林で行われます。現在は、一戦場公園付近にある「教育の森」を拠点に作業路の整備や下刈り、間伐に取り組んでいます。

会員の皆さんに入会の動機を質問したところ、「森の荒廃を防ぎたい」「何か地域に役立つことがしたい」「活動を通じた友人づくり」「自然とのふれあいや健康づくり、ストレス解消」という回答がありました。会員それぞれが活動の中に趣味や生きがいを求めながらも、"里山の再生"という共通目的のもとに参加していることが伺えます。

「里山を守る会」では今後、自主運営による森林整備を進めていく一方で森林レクリエーションや森林教室などを開催し、森について楽しみながら学べる機会を設けていく方針です。

見直される森林の役割

現在、市内には八千二百六十一ヘクタールの森林があり、その面積は、市域全体の五十六パーセントを占めています。

森林には、川の水量を調節する機能のほか、土砂の流失防止や空気の浄化、騒音の緩和などの働きがあります。また、「海は森が育てる」といわれるように、養分に富むきれいな水を供給し、魚の繁殖を助けています。さらに森は、森林浴やキャンプなどを通じて、私たちの暮らしに潤いと安らぎを与えてくれます。

しかしながら、林業の担い手不足や山林所有者の高齢化などから森の管理が十分に行えず、森林荒廃は深刻な問題となっています。国や県の補助金を活用した間伐事業も、広大な森林すべての再生には追いつかないのが現状です。

このような中、自主的な奉仕作業で森林を守ろうという団体が増えています。県内では、十八の森林保護グループが「ちば里山センター」を発足させました。「鴨川里山を守る会」も、すでに同センターに入会。

特に宮山地区では、「みんなみの里」が行っている都市・農村交流を、炭焼き事業にも導入しています。これは、山林の間伐作業や炭づくり体験を通じて、都市住民に森林の役割や重要性を理解してもらう、新しい試みです。

同地区ではこのほかにも、地元中学生を対象とした自然体験や森林教育などが展開されるなど、里山保全や林業後継者の育成に向けたさまざまな取り組みが進められています。

間伐・下刈り作業に汗

公有林などを活動拠点に

森林ボランティア団体「鴨川里山を守る会」が、昨年十月に発足しました。この会は、山林所有者の高齢化などで管理が行き届かなくなった森を、荒廃の危機から救おうと結成されたものです。市内外から集まった会員約三十人の皆さんは、公共性の高い山林などを拠点に間伐や下刈りなどに汗を流しています。また、市内の山間地では炭焼き窯を使った木炭生産が復活。枝打ちされた雑木をリサイクルしながら、森林の保全を進めています。水を蓄える、空気を浄化する、土砂災害を防ぐ、暮らしに潤いと安らぎを与える―。現在、このような森林の働きが見直されると同時に、かけがえのない財産を次世代に残していこうという取り組みが、さまざまな形で展開されています。

里山の再生に新たな試み
木炭生産を復活（市内5地区）

宮山地区の炭焼き窯

釜沼、畑、粟斗、細野、宮山の五地区で、炭焼き窯を使った木炭生産が行われています。近年、木炭や竹炭の持つ消臭効果や除湿効果、浄化作用などが注目を集め、新たな需要が生まれたことから、雑木を木炭としてリサイクルし、同時に森林整備を図っていこうと始められたものです。

あなたも参加しませんか「里山を守る会」の会員募集

「鴨川里山を守る会」では、下記のとおりボランティア会員を随時募集しています。

■応募資格　自らの責任で判断し、行動できる20歳以上の方
■活動場所　市内の山林
■活動内容　木の植栽や下刈り・枝打ち・間伐などの作業のほか、森林や林業についての研修会など
■活動回数　年10回程度
■年会費　2,000円（保険代、通信費など。ただし活動に伴う交通費、昼食代は参加者側で負担）

※申し込みは市農林水産課（☎㉝7834）へ

安房ラーニングセンターで
城西国際大学の公開講座「鴨川の海と文学」をテーマに

城西国際大学では、皆さんの生涯学習に役立ててもらおうと、次の内容で公開講座を行います。会場は、太海多目的公益用地内の安房ラーニングセンターです。

この講座は、「南総里見八犬伝」や「水滸伝」、「伊勢物語」など日本・中国の古典文学にふれながら、「鴨川の海」という身近なテーマとの関わりを、ユニークな視点から読み解いていこうというものです。

聴講は無料です。どうぞこの機会に、鴨川の地域文化の特徴について学んでみてはいかがですか。

■第一回・『八犬伝の世界をめぐって』
▽一月二十九日(土)＝「描かれた八犬伝―絵と読本」水田美術館学芸員の吉田恵理氏
▽二月五日(土)＝「水滸伝と八犬伝―類縁と差異」人文学部専任講師の欒殿武氏

■第二回・『海と文学』
▽二月十九日(土)＝「伊勢物語―東下りの海」人文学部長の三木紀人氏
▽二月二十六日(土)「平家物語と海―先帝入水など」人文学部専任講師の岡田美也子氏

■会場　城西安房ラーニングセンター（太海多目的公益用地内）
■時間　午後一時三十分から三時まで
※聴講は無料。受講は一回単位でも可。申し込みは同大学生涯教育センター（☎0475㊺7685）へ。各講座とも定員五十人になり次第締め切り

―鴨川市と天津小湊町の合併―
2月11日の新「鴨川市」誕生まで
あと27日

とじて保存しましょう